

＜若林政枝姉＞

明治44年9月9日静岡県富士市にて、父・伊藤正治 母・せいの長女として生まれる。昭和4年7月24日、19歳のとき 若林光義と結婚。8人(2男6女)の子宝を授かる。昭和23年9月29日受洗。そのあとで受洗された御主人と共に、聖書の無料配布の働き《ギデオン協会》に入会され、長年に亘って活躍をされ、現在の清水草薙教会創立にも大いに尽力される。平成3年2月17日、堺キリスト教会に転会され、熱心に信仰生活を送られる。趣味は、お花。平成23年5月17日午前3時21分、老衰のため清恵会病院にて100歳の天命を全うされる。人柄は朗らかで温かく、何事にも積極的に活発な、尊い賜物を精一杯に生かされた日々でした。

【姉妹の葬儀は、堺キリスト教会において、家族のみの少人数で行われ、瀬藤美幸牧師の司式で行われました。草薙教会には、連絡を頂きましたが、御意向により事後の報告となります】

＜葬儀という礼拝＞

村上定幸

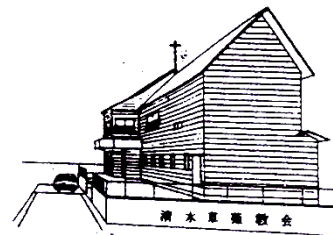
伝道開始の頃の、大きな存在をまた一人天におくったことになりました。若林政枝姉を知る兄姉も多いと思います。納骨式は今のところ日にちは決まっていますが、草薙教会で行うことになると思います。姉妹の生涯を知る兄姉は大いに思い出して下さい。

【**同じ場所**】このことは、先に天におくった後藤忍兄の葬儀の時にも申し上げましたが、信仰者は、この場所で洗礼を受け“新しく生まれ”ます。そしてこの場所で結婚式を挙げ、父と母のもとを離れ、一体となります(エペソ書5:31)。そして子らを神の守りに委ね、奉仕の生涯を、恵みと豊かさの中で送ります。そしてこの場所で、葬儀という礼拝に導かれます。言ってしまうと簡単なことですが、神様の経験です。そうはいかない山のような出来事を思い出すことでしょう。一人の兄姉が“信仰の生涯”を全うするという事は、とても闘うことの多いことなのです。このような証しに出会う時、教会は感激するのです。

【**同じ言葉で**】黙示録にこうあります(7:9)。“あらゆる国語の人達が、声を合わせて「救いは神から」と。では、どこの、どんな言葉なんでしょうか。どうも日本語でもなさそうだし、聖書で用いられているギリシャ語じゃ、こちらが大声で合わせる事ができない。これができるのが神の支配の実現なのでしょう。それどころか同じ文法の言葉を使っても、通じないことを良く経験します。分かってもらえないで、そして相手の言うことが理解できなくて困るのです。“人と人との心かよわず”と讚美歌にあるのが、私たちの日常なのです。バベルの塔の出来事を知る、私たちは、あの出来事を、再び経験しないように、復活の主を期待し、確信しているのです。通訳もない世界、不和を知らない世界、救いを満喫できる世界に希望を置くのが教会の、毎日の姿なのです。

週報

2011年 5月 22日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリースタジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

振替口座 00890-6-214042